



Title	振替価格設定問題の研究
Author(s)	椎葉, 淳
Citation	大阪大学, 2003, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/44192">https://hdl.handle.net/11094/44192</a>
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed</a> 大阪大学の博士論文について

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	椎 葉 淳
博士の専攻分野の名称	博士（経済学）
学 位 記 番 号	第 17450 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 15 年 2 月 20 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 1 項該当 経済学研究科経営学専攻
学 位 論 文 名	<b>振替価格設定問題の研究</b>
論 文 審 査 委 員	(主査) 教授 浅田 孝幸
	(副査) 教授 高尾 裕二 教授 小林 敏男

#### 論 文 内 容 の 要 旨

本論文の目的は、経営戦略・組織設計といった要因が、振替価格の設定にどのような影響を有するのかを検討することにある。論文は全体で 8 章から成り立っており、第 1 章での序説を受けて、第 2 章から第 4 章までは、振替価格研究の前提となる内容について論じている。第 5 章から第 7 章までは、経営戦略・組織設計といった要因が、振替価格の設定にどう影響するのかを検討している。最後に第 8 章において、本論文において得られた結果と知見を要約している。

まず第 2 章では、会計研究方法論について基礎的な考察を行い、振替価格研究の前提となる内容について論じている。次に第 3 章で企業活動を考察対象に含めた会計研究の必要性について明らかにし、そのような視点から振替価格設定問題の分析枠組みを提示している。第 4 章では従来の代表的な振替価格研究をアプローチ別に検討するとともに、各研究が振替価格の設定問題をどのような視点から捉えているのかを考察している。

以上の検討を踏まえて、第 5 章においてフィールド・スタディーで得られた仮説を明らかにし、第 6 章および第 7 章において、その仮説についての理論研究による説明を試みている。特に第 6 章では、振替価格の設定と製品戦略的な側面との関係について、理論からの新たな考察視点を提供している。第 7 章では、振替価格を原価よりも厳密に高い水準に設定することが望ましくなる理由および複数の振替価格の設定方法が用いられる理由について、これまでの研究とは異なる視点から説明している。最後の第 8 章は、本論文で展開した振替価格研究が会計研究全般に対してどのような含意を有するかについて考察したものであり、企業内活動を内生的に捉えた会計理論を構築することの重要性を指摘し、今後の研究の方向を示唆し、まとめとしている。

#### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、振替価格研究についてのこれまでの研究を理論・実証のいずれの側面においても、進展させることに成功している。特に、実証によってそれら仮説を導き出すとともに、経営戦略、情報経済学のモデルによって、その仮説を説明しうる新たな枠組みの構築に成功している。さらにそこからの一定の振替価格研究における方法論を提示することにも成功している。以上から、本論文は、振替価格研究において先行研究に新たな知見を追加しており、博士（経済学）の学位に十分に値するものと判断する。